協力隊経験を生かした国際理解教育実践例

小澤明子
（平成 15 年度 1 次隊 音楽 パラグアイ）

Hola, me llamo Akiko. soy una profesora de primaria.ということで、子ども達にもこんな感じで自己紹介をしていきます。そうすると、子ども達は目を丸くして、「これから何が始まるんだろう」っていうような顔をしています。わからないことをいいことに適当に間違ったことをしゃべったりもしているような何ちゃって先生をやっております、1　5 年度一次隊パラグアイ音楽派遣の上溝小学校という神奈川県相模原市から来ました小澤明子と申します。どうぞよろしくお願いします。

今までのみなさんの発表と違って、私はもう 7 年前に行ってまいりまして、現地での活動よりこれからどのように日本で還元していくかということに重点を置いて発表したいと思います。といいましてもパラグアイってどこだろうと思われる方もいると思いますので紹介します。じつは今年かなりパラグアイは有名になったんですね。ご存じの方もいらっしゃいますか？　FIFA ワールドカップで日本と戦いまして、パラグアイ勝ったんですね。そういったことでかなりパラグアイもメジャーになってきて嬉しく思っています。この真ん中です。ど真ん中にある、南米のコラソン、心臓といわれる場所なんですけれど、日本と大体面積が同じくらいで、1　．1　倍です。でも人口は 700 万人弱くらいです。どんな感じかといいますと、牛が人口よりも多くいて、これは野良牛ですかね、ちょっとわかんないんですけど、野良牛とか野良馬とか色々いるんですが、こういう風にいっぱい道端にいるようなのどかな国です。

そんなところで何をしてきたかといいますと、教員養成校という大学生にあたる、これから先生になる方たちに音楽の教え方を教えました。これは日本から持ってきたトランペットを生徒たちに吹かせて見ていることなんですけど、ちょっと楽器に口付けるのは抵抗あるかなと思ったんですけど、パラグアイは回し飲み文化、お茶の回し飲みする文化がありまして、みんな違和感なく、男の子の後でもどんどん口をつけて楽器を吹いてくれました。そしてこれは幼稚園と小学校中学校にも出前授業みたいな感じで行ったんですけど、この方がカウンターパートのナンシーさん、っていって、この方に私の教え方を教える、というような技術移転をしました。これ幼稚園の子ども達なんですけど、カメラが珍しくてすごいやらせ写真になっているんですけど、デジカメを持って行ったんですが、ここに画面に映っているのにデジカメをとるパラグアイ人の方が知らなくて、一生懸命のぞいてとってくれました。

JICA のプロジェクトがあって、日本の高校と私の行っている小学校とで楽器を送ってもらって、それに対してお礼の手紙を送ったりという活動をしました。これは 5 年生で、この人は先生なんですけどもカスタネット初めてさわったっていうような感じですね。楽器はほとんどない状況です。これがお礼の手紙でこの子が書いたんですけれど写真をつけて、その子の直筆に私が日本語で訳をして、日本の小学校、高校に送るというようなことをしました。向こうからも日本語のお手紙が来て、それをまたスペイン語に訳して子ども達に紹介をしました。

そんな経験をして日本に戻ってきたんですけれども、まず同じ学校に戻れたというのがとてもラッキーなことで、担任、音楽専科で 4 年生を持ちました。そのあとも 5 年生とかいろいろな学年を持って今は 6 年生なんですけども、まず朝の挨拶、帰りの挨拶を各国語でしました。ここにプリントにあるんですけれど、こんな感じで 1 年分こんな言葉でやってきて、たとえば中国語だったら朝「おはようございます」ってやる時にみんなで「ニイハオ、ニイハオ」っていう感じでやります。健康観察って小学校でやるんですけど、一人ずつ名前を読んで行って、たとえば「あきばえりさん」だったら「はい元気です」って日本語でほんとはいうんですが、たそこでとえば中国だったら「ヘンハオ」って。「何々さん」「ハイセンシンバ」って言ったりして、その言葉で健康観察をしたり、あと給食の時に配られたらありがとうっていうようにしてるんですけど、そこで「シェイシェイ」とか「グラッチェ」とか言ったりしながらとってさようならも「アウフヴィーダーゼン」「チュース」とか言いながら帰っていくというのを、1 週間同じ言語でずーっとやっていくと 1 年間でこれくらいの言語のあいさつを覚えるというようになっています。さきほど出たグアラニー語もここにちゃんとありまして、これはパラグアイだけで使われている言葉なので、これを知っているとパラグアイ人とっても喜びます。

授業の中での紹介もしてきました。さっそく旗のクイズなんですけど、これが先ほどのエルサルバドルでしたっけ、とてもきれいな旗なんですけど、パラグアイも負けず劣らずカラフルな旗なんですけれど、やっぱり先ほどの中米と同じように真ん中にこういうのがありますね。実はパラグアイは世界で唯一の裏表のある旗なんです。裏には違う真ん中の部分がデザインされているんですけれど、さてなんでしょうということで、1　番ライオン、2 番ワシ、3 番ネズミ。じゃあ 1 番のライオンだと思う人、あ、答え見ないでくださいね今。2 番のワシ。3 番のネズミ。みなさん答えを見ないでいただいてありがとうございます。じゃじゃーん。（旗を見せる）ということで実はライオンなんですね。これは正義の味方のライオンということでここに描かれています。というのを子どもたちの前でもやったりしました。

後はニャンドゥティドレスとかパラグアイハープを紹介したいと思います。ニャンドゥ

ティドレスですね。(動画を流す)これは二年生に行った授業です。（パワーポイントは）同じものを使っております。そうすれば自分が失敗することが少なくなるので。これは二年生の担任の先生がとってくれたものです。後は(動画)これがパラグアイハープ。千と千尋のテーマです。こんな感じだったりとか。今も来ている服がニャンドゥティドレスというものです。これを聞く前にこれもまたクイズ形式で小学生向けにしているんですけど、パラグアイのこのハープを使った曲って色々な音を模した曲が多いんですね。動物の泣き声だったりとか、自然の現象、滝とか風とかそういうものが多いんですけど、次の聞いていただく曲は、ある乗り物を模している曲なんです。ではどんな乗り物でしょうというのがクイズで子どもたちに出すんですが、1　番車、2 番飛行機、3 番汽車なんですね。じゃあどれかなと思いながら聞いてください。(動画)　わかりました？先ほどの汽車の方、正解です。この時 5 年生の担任だったので、5 年生の教室にハープ置きっぱなしにして、休み時間に自由に触れるようにしておきました。中にはふるさとをひいてみたり、キラキラ星をひいてみたりしている子もいました。

　そして、その先なんですけれど、運動会でパラグアイとドミニカ共和国、これは JICA の研修員の方と友達になりまして、紹介をしました。学校に招待しました。そうすると早速子どもたちは取り囲んでブエノスディアス！とか言ってスペイン語であいさつしてみたり、大きな体で黒い肌のドミニカ共和国人の手を握って興味深そうにしていました。

　また 4 年生で音楽祭りというのが地域でありまして、その中で南米スペシャルというのを企画しました。南米スペシャルというのはどういうものかといいますと、次のページに載っているんですけれど、下の方ですね。町の音楽祭りでの企画で、メロディアスデアメリカというアメリカの色んな国、南米中米アメリカの国をうたった歌がありまして、その歌を中心に、1 組はボリビアの花祭、2 組はパラグアイのクリスマス、3 組はコンドルは飛んでいく、ペルーですね、あとは全員でラバンバ・メヒコ、メキシコの歌をスペイン語で歌うというような活動を持ちました。子ども達はその国のチームに分かれて、その国の特産物などを調べてこう、名前のカードを作って、その周りに特産物を書くというような活動をしました。これはボリビアチームで、ボリビアに行っていた隊員からボンボという牛の皮でできている楽器だったり、チャフチャスという羊の爪で作った楽器などを借りてきて演奏しました。
　(動画) 次はラバンパです。(動画)　この曲を子どもたちがすごく気に入って、CM でもよく流れる有名な曲なので、学校だけじゃなくおうちの風呂場で歌っていますとか、この曲が流れたときに一緒にスペイン語で歌っているんですとか、おうちからの嬉しい報告もいただきました。その感想として 4 年生の子が書いてくれたんですけど、最初は歌が難しくてスペイン語難しくて、また振付をつけながら歌うっていうのが難しいんですよね。でもやっていくうちに覚えられたからよかったというような感想を持ってくれました。

全校児童に対しても朝会、全校生徒集まるところで同じようなハープを弾いたり、ちょこっとしたクイズをしたりして紹介しました。同じですね。これは1年生でやった時です。そしたら 1 年生の子たちがお礼の手紙を書いてくれてかわいいね、とか、衣装も上手でした、また聞きたいですって言ってくれました。

そのほかにも筑波大付属の小学校でゲストティーチャーとして招かれまして、4年生の子ども達の前で同じようにパラグアイの紹介をしました。さすがよく総合として練られた授業の中にぽんと入れさせてもらったんですけど、子どもたちはパラグアイのことをよく調べていまして、移民についてだったりとか歴史についてだったりとか聞かれて、私の方が困ってしまうくらい、すごく意欲的な子どもたちでした。これは先ほどの 2 年生でやったやつです。

また教職員との温度差を感じる部分も多かったので教職員にも無理やり押し付けになるんですけど、時間をもらってやらせてもらいました。これは私はもともと津久井郡、今は相模原市に合併してなったんですけど、津久井郡の小学校音楽研究会で二時間かな、時間をいただきまして、大きなきれいなホールでパラグアイを紹介する時間をいただきました。文化のことやら、教育の事やら、ハープのこと、今と同じことをやっていますが、こんな感じですね。職員の中でも研修会を開いて、希望の方に来てもらったりしました。なかなか先生方は校務で忙しくて集まって下さらないんですけど、数をこなして「また小澤先生なんかやってるよ」みたいな感じでちょっとは周知させていきたいなと思いました。

そのほかに色々アンテナを張っていまして、これはJICAの研修員さんたちに横浜を紹介するというような語学ボランティアで行ったんですね。英語だったのでちょっと四苦八苦だったんですけれど、バヌアツの方とかいろんな方と組んでやりました。そういうことをまた子どもたちに「昨日ね、先生ね」とか話しをしたりしました。文部科学省の方のグローバルフェスタでブースがありまして、そこにも呼んでいただいて、パラグアイについて紹介しました。

これから派遣される先生方が多いという事で、どういうものを持って帰ってくれば一番日本で役に立つかなあというのを自分なりにまとめたんですけれど、今ご覧になっていただいたように写真、できればビデオで、ビデオもそんなに長くとるとあとあと編集がめんどくさいので、細切れのものをたくさん撮っておくといいのかな、と思います。今さっきのラバンバだったりメロディアスデアメリカだったりも、撮っといてよかったなあと思いました。あと実物ですね。今日はお持ちできなかったんですけど、楽器だったり衣装だったり特産物の何か、お面とかかぶり物は子ども達面白がってかぶるので、あるとわーっていうそこから、何だろう、知りたいっていう思いが来ると思います。

後は時間がいくらでもとれる方も、忙しい方もいると思うんですが、とれたらダンスや料理、民族楽器を習ってみると畑違いだわ、っていう方もいると思うんですけど、ちょっとやっとくと日本に来てから、戻ってからがすごく楽かなと思います。私ももうちょっとダンスをやってれば、せっかくドレスがあったので子どもたちに踊って見せたりとかできたのかなと思います。ただ料理をやる時は、材料が日本にない場合も多いので、日本で代用できるような料理を考えておくといいと思います。

後はいろいろなボランティアということで、八王子市の語学ボランティアにも登録しているんですが、日本に戻ってからのアンテナを張って、友達を作ってその人からの情報だったり、直接学校に来てもらって子ども達にふれあってもらうというのが一番いいのかなと思います。そんな感じで私から、これは子どもたちに日本から笛がおくられてきて大喜びで持っているところなんですけれど、1 年目がやっぱり勝負だと思いますので、私はもう協力隊でやってきたんだから、という何ですかね、押し売りじゃないですけど、多少うるさがられながらもやっていいと思いますので、やらないまま 1 年すぎると多分 2 年目もできなくなってしまうと思いますので、やらせてください、ちょっと時間くださいっていうふうにして飛び込んでいっていただきたいなと思います。また向こうにいってらっしゃる間に、こんなことだったら日本に紹介できそうなものを集めておいて、活動されるとさらに有意義な活動になるんではないかと思います。それでは行かれる方、また今日聞きに来て下さった方、どうもありがとうございました。

【質疑応答】
質問：楽器はどうやって持って帰ってきたんですか
先生：郵便で持ってきました。それも 2 台も持って帰っちゃったんですけど、日本に届いて大きさにびっくりしました。棺桶みたいなこんなでっかい木の箱で届きまして。人がすっぽり 2 人くらい入るくらい。でも 2 万円くらいで送れました。

質問：こちらの各国の挨拶っていうスペイン語以外の言葉、あとグアラニー語以外の挨拶はどうやって調べたんですか。
先生：協力隊仲間と連絡をとったり、あとはインターネットでもこれぐらいだったらありますので。まあちょっとない隙間のところ、ルーマニア語とかタイ語とかありますが。調べればあると思います。